

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります、その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	133人	社会	133人	数学	133人
	理科	133人	英語	133人		

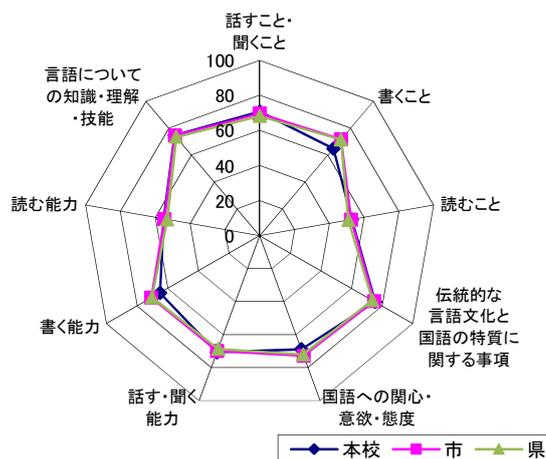
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	70.8	69.6	68.2
	書くこと	64.9	71.7	71.5
	読むこと	53.0	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.5	74.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度	68.9	72.8	72.1
	話す・聞く能力	70.7	69.9	68.7
	書く能力	65.1	70.7	70.3
	読む能力	55.2	54.7	53.1
	言語についての知識・理解・技能	74.8	74.5	73.5



★指導の工夫と改善

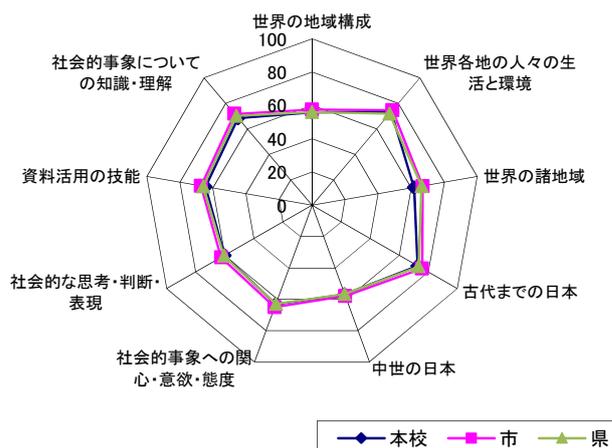
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○市平均より1.2ポイント高い。「話の内容を正確に聞き取る」問いは94%と高い正答率で、「司会者の工夫を聞き取る」問いが、市平均より5.3ポイント高い。</p> <p>●「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る」問いは、市平均より8ポイント低い。</p>	<p>・リスニングを用いた授業を行い、聞き取ることは慣れてきたように感じる。今後も継続して指導する。また、「話し方の工夫」を聞き取るために、話し方の工夫にどのような方法があるのかを教え、聞き取りテストで定着を確認する。</p>
書くこと	<p>○「材料を分類して整理したうえで、文章の構成について意見を述べる」問いでは、市平均と同等である。</p> <p>●市平均より6.8ポイント低い。特に作文は無回答が21.1%と市や県より10ポイント近く多いため、市平均より大きく下回ってしまったと考えられる。</p>	<p>・条件のついた作文を書くことが苦手な生徒が多い。まずは条件を読み取ること、その条件に合った文章の構成など、作文の基本的な書き方を身につけられるように作文の単元で指導していく。また、定期テストにも作文の問題を加え、作文の書き方が身に付いているか確認する。</p>
読むこと	<p>○全体的には市平均と同等である。「場面の展開をとらえる」問いでは、市平均より8.1ポイント高い。</p> <p>●「文章の展開をとらえて、その内容を整理する」問いでは、市平均より7.6ポイント低い。</p>	<p>・説明文では、段落どうしの関係に着目して、文章の構成を捉え、内容を読み取らせる。</p> <p>・文章を読み取り、何字以内にとめるなど、整理するためには、どこに着目すべきか、授業を通して見つける力を育てられるようにする。</p> <p>・登場人物の心情を読み取るために、情景描写に着目して、作品を読み深めることができるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○市平均より0.7ポイント高い。漢字の読みでは8割を超える正答率だった。また、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」問いでは市平均より8.6ポイント高い。</p> <p>●小学校で学習した漢字の書きの問題によっては、市平均を下回るものもあり、漢字の書き取りは今後も課題である。</p>	<p>・漢字テストを定期的に行い、漢字の定着を図る。</p> <p>・文章に出てくる様々な語句や新出漢字など、意味のわからない用語は辞書等を用いて調べさせたり、語句を用いて短文を書かせたりすることを通して、多くの言葉を吸収し、使えるようにする。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	55.9	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	73.5	74.6	71.9
	世界の諸地域	61.7	67.0	66.3
	古代までの日本	72.6	75.7	73.3
	中世の日本	56.8	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	63.2	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	60.2	62.5	60.5
	資料活用技能	64.5	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	68.5	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

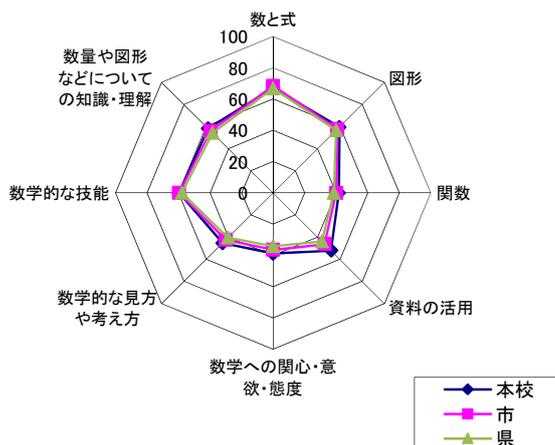
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	<p>○メルカトル図法の地図の特色に関する問題では、市平均より6.7ポイント、県平均より7.9ポイント高い。</p> <p>●地図中の緯度と経度の読み取りに関する問題では、市平均・県平均と比べ約10ポイント低い。</p>	<p>・緯度と経度の読み取りに関する問題の正答率が低かったため、赤道と本初子午線、東経と西経など、緯度と経度に関する復習の時間を設け、知識を定着させる。そのために、日本の各地方についての学習の中で、日本の大まかな緯度や経度を確認する際には、世界地図なども提示し、既習内容の復習が出来るようにする。</p>
世界各地の人々の生活と環境	<p>○全体としては県平均より1.6ポイント高い。世界各地の自然環境に関する問題では、市平均より1.0ポイント、県平均より8.5ポイント高い。</p> <p>●全体としては市平均より1.1ポイント低い。世界の宗教分布に関する問題では、市平均より5.3ポイント、県平均より4.4ポイント低い。</p>	<p>・宗教に関しては、3大宗教とヒンドゥー教を中心に、それぞれの宗教の特色をとらえさせるようにする。2学年の後半の地理では、日本の各地方について学ぶことになるので、その際に復習として、雨温図の読み取りの練習問題も、定期的に行うようにする。</p>
世界の諸地域	<p>○適切な学習計画の立て方に関する問題では、市平均より0.3ポイント、県平均より1.4ポイント高い。</p> <p>●複数の資料をもとに考察したり判断したりする問題に関して、市や県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・複数の資料をもとに考察・判断する問題の正答率が低いので、「自然環境の地図」と「雨温図」の二つの資料からの読み取りや、関東地方の学習の中での「東京23区への通勤・通学者」「東京23区の昼夜間人口」の二つの資料など、授業の中で複数の資料から読み取る機会を設け、考察する力をつけていく。</p>
古代までの日本	<p>○渡来人に関する問題では、市平均より0.4ポイント、県平均より2.5ポイント高い。奈良時代の仏教に関する論述問題では、市平均より1.0ポイント、県平均より7.4ポイント高い。</p> <p>●古代文明の特色に関する問題では、市や県平均より約9ポイント低い。</p>	<p>・資料や映像なども活用し、四大文明のそれぞれの特色をとらえることが出来るようにする。</p> <p>・日本の出来事と世界の出来事をリンクさせるため、それぞれの出来事を比較できるように年表にまとめるなど、指導を工夫する。</p>
中世の日本	<p>○中世の時代の流れを大まかにとらえる問題では、市平均より1.8ポイント、県平均より6.3ポイント高い。</p> <p>●中世の定期市に関する問題では、市平均より4.7ポイント、県平均より9.4ポイント高い。</p>	<p>・小テスト等を実施し、重要語句を中心に知識の定着を図る。地理同様、複数の資料から考察する問題の正答率が低いので、「フランス革命前と後の税負担を表した風刺画」からの読み取りや、「欧米諸国の世界進出の図」と「綿織物の輸出額の変化」の二つの資料など、複数の資料から読み取る機会を設け、考察する力をつける。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	67.1	68.4	66.8
	図形	59.5	57.8	56.5
	関数	41.6	40.1	38.5
	資料の活用	52.1	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	38.7	36.4	34.1
	数学的な見方や考え方	45.3	42.5	40.5
	数学的な技能	59.6	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	58.3	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

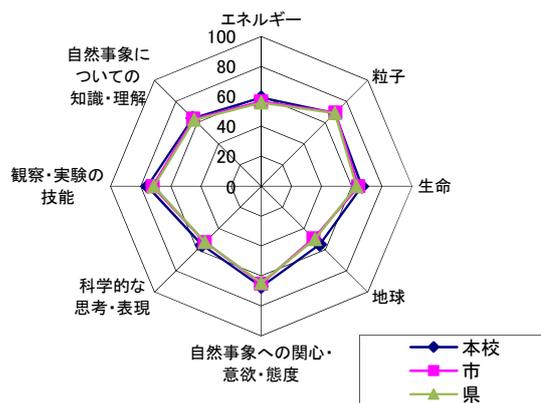
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○県平均より0.3ポイント高い。</p> <p>●市平均より1.3ポイント低い。同類項をまとめる問題では、県正答率と比べて6.5ポイント低い。</p>	<p>・計算問題を解く際に、計算過程を書かせることを徹底させることで、同類項をまとめるなどの基本的な計算技能を習得させる。</p>
図形	<p>○市平均より1.7ポイント、県平均より3ポイント高い。空間図形の問題では、4問とも県正答率を上回っている。</p> <p>●作図、おうぎ形の面積を求める問題では、それぞれ県平均より0.9ポイント、0.4ポイント低い。</p>	<p>・作図の学習をする際に、作図方法を指導するだけでなく、作図によってできた図形の特徴を考えさせ、その特徴を踏まえながら、作図問題を多く取り組ませる。</p>
関数	<p>○市平均より1.5ポイント、県平均より3.1ポイント高い。</p> <p>●反比例のグラフと式の関係についての問題では、県平均より2ポイント低い。</p>	<p>・具体例から、表を作り、式に表し、グラフにする活動を、授業内で取り扱う問題で繰り返し行い、3つの関連性の理解を深められるようにする。</p>
資料の活用	<p>○市平均より5.8ポイント、県平均より8.3ポイント高い。</p> <p>●度数折れ線の特徴を読み取る問題では、県正答率より0.2ポイント低い。</p>	<p>・グラフに関する知識や、特徴の理解を深めるために、資料を読み取ってヒストグラムや度数折れ線を実際に作る活動を多くしていく。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	59.2	56.6	55.8
	粒子	69.0	69.6	69.0
	生命	66.8	64.4	63.0
	地球	54.9	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	67.1	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	55.5	52.8	52.8
	観察・実験の技能	75.4	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	64.3	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

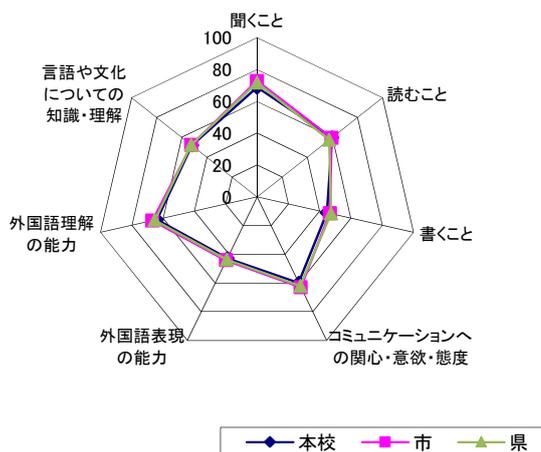
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○領域正答率は59.2%と市や県を上回っている。特に「力と圧力」における圧力の大きさの求め方についての問題では、県や市の平均より10ポイント以上高い。</p> <p>●「音の性質」は県や市の平均より0.4ポイントほど低く、音の波形と高さの関係の正答率が低い。</p>	<p>・音の波形と高さ・大きさの関係について、オシロスコープを用いて実際の波形と、耳で聞く音の高さと大きさを比べる実験を行うなどして視覚的・聴覚的に提示し、理解させる。</p>
粒子	<p>○領域正答率は69.0%と県と同じである。二酸化炭素を発生させる問題や、溶解度曲線から再結晶した結晶の質量を求める問題は県より10ポイント高い。</p> <p>●気体を発生させて試験管に集める際、1本目の試験管に空気が多く含まれていることを指摘する問題では県より10ポイント低い。</p>	<p>・実験の注意点について、なぜそう注意しなければいけないのか理由を、実験の計画の際に考えさせて、実験を行わせる。</p> <p>・実験方法を考える問題では無回答の割合が15.8%と多かったため、実験の際に実験方法を自ら考える時間を設ける。</p>
生命	<p>○領域正答率は66.8%と、県や市より3ポイント高い。実験の結果から考察する問題では、県より17ポイント、市より3ポイント高い。</p> <p>●「植物の分類」では、県より2ポイント、市より4ポイント低い。</p>	<p>・シダコケ植物や、裸子植物、被子植物などの特徴を表やフローチャートなどにまとめ、実際に植物の写真や特徴を捉えながら分類をさせる実習を行い、より定着させる。</p>
地球	<p>○領域正答率は54.9%と県や市より4ポイントほど高い。特に「火山」では、県や市より8ポイントほど高い。</p> <p>●示準化石と示相化石がそれぞれどんなことを示すのかを問われた問題では、県や市より10ポイント以上低い。</p>	<p>・示準化石と示相化石の具体例を挙げ、それらがどんなことを示しているのか、示準化石であればその時代の様子、示相化石であればその環境の様子を映像等で見せることによって、知識を定着させる。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	68.8	72.8	71.8
	読むこと	59.7	59.4	57.5
	書くこと	44.7	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	59.9	63.0	62.2
	外国語表現の能力	42.7	44.2	43.6
	外国語理解の能力	64.0	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	51.9	52.3	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○内容別正答率を見ると、「語形・語法の知識・理解」が、市平均より3.3ポイント、県平均より5.4ポイント高い。</p> <p>●平均正答率は68.8%で、県平均より3ポイント、市平均より4ポイント低い。内容別正答率を見ると、「対話文の応答のリスニング」では県平均より3.1ポイント、市平均より5.5ポイント低い。</p>	<p>・授業の中で、放送問題の聞き取りを行ったり、チームティーチングで教師の会話を聞かせたり、生徒に対話活動をさせる活動をさらに取り入れ、「聞き取る活動」に取り組ませる。</p> <p>・ALTとの授業の中で、ペアやグループで対話を行う活動に取り組ませるなど、意欲的に会話活動に取り組むことで、聞く力を育てるようにする。</p>
読むこと	<p>○平均正答率は59.7%で、県平均より2.2ポイント、市平均より0.3ポイント高い。</p> <p>●内容別正答率を見ると、「長文の読み取り」が、県平均より0.7ポイント高いが、市平均より1.5ポイント低い。</p>	<p>・英語の長文を読む力をつけるために、教科書やワークなどの英文を使って、あらすじや要点の読み取りを行うなどの活動を通して、問題を解いたときに的確に情報を読み取ることでできる能力を育てるようにする。</p> <p>・英語を読み取る力を付けるために語彙を増やすため、授業中に英単語を綴り、発音、意味の3点セットで覚えるように取り組ませたり、さらに単語テストなどを取り入れたりすることで定着を図る。</p>
書くこと	<p>○英作文に関しての内容別正答率を見ると、どれも市や県平均より下回っているが、「3文以上の英作文」では、県平均より0.3ポイント、市平均より0.8ポイント低い程度にとどまった。</p> <p>●平均正答率は44.76%で、県平均より2.6ポイント、市平均より1.9ポイント低い。さらに、内容別正答率は「単語の並べかえによる英作文」が、県平均より2.9ポイント、市平均より3.2ポイント低い。</p>	<p>・授業の中で習った文法事項を使った英文を書かせたり、テーマを与えて自分の考えを英文にする活動に取り組ませたりすることで、書く意欲や能力の向上を図る。</p> <p>・自分の考えを英語で書く力を育むために、ウォームアップ等で基本文の練習を行わせ、英文を書く力につなげる。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○読書に対する項目では、「1か月に、何冊くらい本を読みますか。」で、5冊以上読んでいる生徒が23.9%いて、市平均19.5%や県平均18.1%を大幅に上回っている。読書好きな生徒が多く、学校での朝の読書の時間や地域のボランティアの方のブックトークなどの効果が表れている。

○学校での様子に対する項目では、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」で、肯定的に回答した生徒は76.1%で、市平均74.4%や県平均71.4%よりも上回っている。本校は分からないところがあれば、すぐに質問して解決しやすい環境にある。

○「毎日、朝食を食べている」で、肯定的に回答した生徒は95.5%で、市平均94.1%や県平均93.3%よりも上回っている。また「家の人と学習について話をしている。」で、肯定的に回答した生徒は87.3%で、市平均86%や県平均80.9%よりも上回っている。さらに「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」で、肯定的に回答した生徒は87.3%で、市平均86.8%や県平均85.8%よりも上回っている。多くの保護者が、朝食を家庭できちんと食べさせ、学習に対して関心が高く、社会情勢に興味・関心を持たせようとするなど、生徒の教育に関して興味・関心を持ち、熱心取り組んでいると言える。

●「学校の宿題は、やりたくなる内容だ。」で、否定的な回答をした生徒は65.6%で、市平均54.7%、県平均55%。また「学校の宿題は、自分のためになっている。」では肯定的に回答した生徒は83.6%で、市平均90.2%や県平均88.5%よりも下回っている。さらに、「1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、来たりしますか。」で、2時間以上見ているのは、45.5%で、市平均42%や県平均43.4%よりも上回っている。

この結果から、学習時間が少なく、家庭学習が身に付いていない生徒が多い現状であると言える。そこで、学校では、宿題を行うことに対するモチベーションが高くなるよう、「普段からきちんと宿題に取り組んでいると評価に反映される。」や「ワークをやることによって、問題が解けるようになる。」など、宿題を意欲的に行うことが、自分の力となり、将来の自分につながっていくことを意識させる工夫が必要である。さらに家庭での過ごし方について学校から積極的に保護者会や学年だより等を通じて情報を発信し、保護者の協力が得られるようにする。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」肯定的に回答した生徒は68.7%で、市平均81.3%や県平均77.4%よりも大幅に下回っていて、意欲的に学習に取り組もうとする生徒が他校と比べて少ない。それぞれの授業で、学習することの大切さや有用感、必要性を高めるための手立てなどを行い、現在行っている自主学習ノートなどをさらに活用して、学習習慣を身に付けさせる工夫を行う。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化	「学習の手引き」に、新たに、自主学習ノート用いた家庭学習の取組に関する工夫など具体例を多く示し、生徒の取組を充実させる。(自主学習ノート実施3年目)	「家で、学校や塾の決められた宿題のほか、自分で考えた勉強をしている。」に対する肯定的な回答割合が、59.7%であり、県と同等であるが、市の平均より6.1ポイント低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
思考・判断・表現は、県平均より1.5ポイント高く、市平均と同じである。基礎・基本は県平均より0.4ポイント高いが、市平均より0.6ポイント低い。	基礎学力の定着	基礎的な学習内容の定着を図るために、短い時間を活用して行う指導を週1回設定する。全校生徒が与えられた課題に取り組み、全学級で教員がTTで指導にあたる。